

奥裾花 自然園 野鳥と 花図鑑



アオジ

漂鳥。チンチョンチリ、スペチリリとゆっくりしたテンポで囀る。似た鳥にノジコがいる。同種とも今池湿原にいて、ノジコの密度は高い。



ウグイス

漂鳥。倒木の後、空ぬけになってチシマザサが入り込んだところで、繁殖する。コマドリ、オオルリに並び、日本三鳴鳥の一つである。



ウン(雄)

漂鳥。亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、ヒーヒーと口笛のような声で囀る。写真は今池湿原ヘカサグサの実を食べに来たところ。



オオアカゲラ

留鳥。二次林のない奥裾花での生息は少ない。クダイカンバなどのやわらかな木をうち、餌場として、繁殖場所として利用する。



オオルリ(雄)

夏鳥。姿、鳴き声共に美しく、日本三鳴鳥の一つ。昔からオオルリを京女、キビタキを東男と言ってもはやされてきた。



オシドリ(雄)

留鳥。林内のブナなどの大木の洞で繁殖する。今池湿原では冬鳥のマガモも繁殖している。秋から冬になると群れて裾花川下流へ出てくる。



カケス

留鳥。フナやミズナラの実を貯食する。林内には貯食から発芽したと思われる十数本の株立ちしているフナが見られる。ジェンジェーと大声で囀る。



キビタキ(雄)

夏鳥。オオルリと並び、姿と鳴き声の美しい鳥。囀りはポッポロリー、オーシククオーシクとのどかさを感じる。



クマタカ

留鳥。大型のタカで、絶滅危惧種I-B。イヌワシ(I-A)も生息し、原生林という林の豊かさを象徴する鳥。



クロジ

漂鳥。多雪地帯のブナ林を代表する鳥。フィーチョチョ、フィーチョチョと大きな声で囀る。局所分布する珍しい種類。



ニュウナイスズメ(雄)

漂鳥。スズメよりやや小形。雌は全体が灰褐色で黒褐色の過眼線とクリーム色の眉斑が目立つ。鳴き声はチーチーチーと鋭い。



ヒガラ

留鳥。亜高山帯を代表する鳥で、数も多い。頭の上の冠羽が特徴で、囀りはツツピン、ツツピンと尻上りの細い声を速くり返す。



メジロ

漂鳥。ヒヨドリと共に花の蜜を好み、群れ生活をする。地鳴きはツイー、ツイー、囀りはチーチュル、チーチュル、チチルチチル…と複雑。



ミンサザイ

留鳥。園内のあちこちの溪流沿いに住み、地鳴きはウグイスに似たチャツチャツ、囀りは小さな体に似合わない大声で、複雑。



タムシバ

花はコブシに似た白い花が咲くが、コブシにはある花の下の一枚若葉がない。葉や枝を噛むと甘い。



キクザキイチゲ

多年草。早春3~5月、淡紫色または白色の径2.5~3cmの花をひとつ。頸片は花びら状で10~13個あり、花弁はない。



ニリンソウ

多年草。やや日影の山中に生える。莖葉の間から普通2本の長い柄を出し、4~5月先端に径1.5~2.5cmの白花を開く。



オオバキスミレ

多年草。多雪地の少し湿ったところに群生することが多い。花は黄色で直径1.5~2cmで、草丈15~30cmになる大形のスミレ。



ラショウモンカズラ

多年草。花茎は直立し20~30cmになる。4~5月、花茎上部の葉の脇に大きな紫色の唇形花をいくつかつける。



スミレサイシン

多雪地帯に生える多年草。花は4~6月、径2~2.5cmの淡紫色。葉は花より遅れて開き、先はとがり基部は心形。



タニウツギ

樹高2~5m。花冠は長さ2.5~3.5cmの散房花序で、ランバ状の淡紅紫色の花を多数つける。花期は5~6月。



サンコヤウ

深山の林下に生える多年草。茎や葉に短毛がある。茎の先に5~7月径2cmほどの白色の花を多数つける。



イワカガミ

高山や深山の草地、岩場に群生する多年草。葉は長い葉柄があり根元から群がって出る。4~7月淡紅色の漏斗型の美しい花が咲く。



チゴクリ

多年草。春に地下茎から高さ10~30cmほどの茎を出し、葉は3~5cmほどで無毛。4月の終わりの頃から5月にかけて茎の先端に通常1つの白い花をつける。

●みんなで美しい自然を守りましょう●動物の捕獲、植物の採取は固く禁じられています●

お問い合わせ先

- 鬼無里観光振興会
TEL.026-256-3188 FAX.026-256-2237 〒381-4302 長野県長野市鬼無里日影2750-1
- 長野市北部産業振興事務所
TEL.026-254-2324 FAX.026-254-3883 〒381-4102 長野県長野市戸隠豊岡1554



アカショウビン



吉池

奥裾花 自然園

おくすそばなしぜんえん

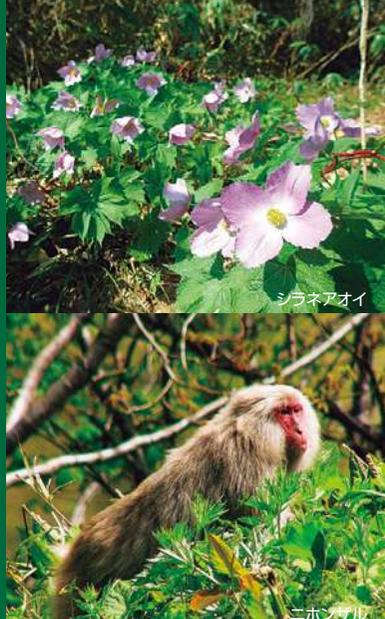


ニホンカモシカ



谷の都 信州 きなさ

信州鬼無里



シラネアオイ

ニホンザル



今池の水芭蕉



園内には、頻りに野生動物(ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザル、ニホンジカなど)が目撃されています。入園の際は、クマ鈴などの鳴り物を身に付けるようにしましょう。

大自然に浸る・学ぶ・安らぐ。奥裾花自然園

鬼無里・奥裾花自然園は

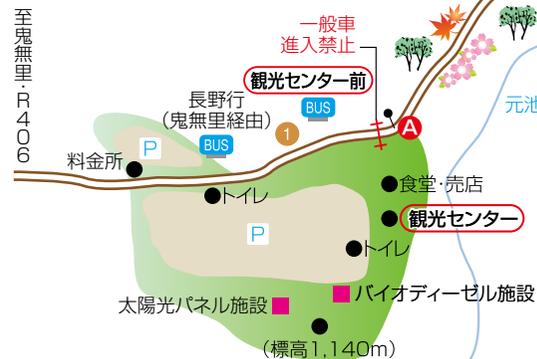
長野県が明治百周年記念事業として、県の代表的な優れた大自然を末永く保護し、大人も子供も楽しみながら自然を探勝し学べるように昭和44年11月に開園しました。

自然園は、自然景観地域として保護されている裾花川の源流、新潟県との境に位置し、日本の温帯林を代表するブナの原生林を有し、一帯は平成7年林野庁の「水源の森百選」にも選ばれています。本州有数の水芭蕉の大群落のほか、60数種の野鳥、クロサンショウウオ、長野県天然記念物指定のモリアオガエルなど多くの小動物が見られます。

5月中旬ごろまでは、窪地には雪も残っているので足下に注意して散策してください。

◎面積=約122.6ヘクタール

- 注) 1 シャトルバス運行(●⇄●)は、水芭蕉開花時期のみ運行されます。詳しくは、鬼無里観光振興会へお問い合わせください。
 2 奥裾花ダム付近から自然園全体は携帯電話の電波が通じません。
 3 自然園付近の気温(午前10時)
 5月上旬:約10℃ 10月中旬:約8℃
 4 雪が残る5月中旬までは長靴をご用意ください。
 5 飲み物はお持ちください(売店休業の場合あり)。



今池湿原の水芭蕉

ここ奥裾花の秘境に水芭蕉の群生が発見されたのは昭和39年のこと。

周囲1,000mの範囲に密生しその数は約81万本。本州有数の群生地として知られています。5月初旬から6月上旬頃まで、雪解けの後を追って今池湿原・こうみ平湿原一帯に白い清楚な姿を見せてくれます。

花が終わると葉は大きく成長し、夏にはヨシも伸びて湿原全体をすっかり覆いつくします。



吉池のイモリ、クロサンショウウオ、モリアオガエル

吉池は密林の中の小池ですが、イモリがたくさん棲み赤い腹を見せます。クロサンショウウオは林下の地上で昆虫を食べて暮らしていますが、5月中下旬には池中にたくさん集まり、水中の枯枝にマユダマのような白い卵嚢をたくさん産みつけます。

モリアオガエルは吸盤を指先の先に持ち、アマガエルのように樹上や草の上に棲み、昆虫を食べて暮らしていますが、6月下旬には池畔の枝上に数百の大きな卵塊をつけます。特に池畔のトチノキの木には地上20m位の高所まで多くの卵塊がぶら下がり壮観です。



再生可能エネルギーの活用

無電化地域の奥裾花自然園では、観光センターや売店への電力供給や水洗トイレ利用のために、環境に配慮した再生可能エネルギーを活用しています。(平成30年度完成)

小水力、太陽光、バイオディーゼルの3つの再生可能エネルギーを組み合わせ、安定的な電力供給を確保しています。
 [写真は元池取水口下段に設置された小水力発電施設]



野鳥の大楽園

野鳥は自然の豊かさのバロメーターとされ、自然の女神といわれます。園内のブナ林には、5月から6月にかけて60数種の鳥が見られます。早朝には鳥種を区別できないほど、一斉に囀り自然の神秘さを十分に感じさせてくれます。その中での珍鳥はクロジ、ニュウナイスズメ、ノジコなどです。探鳥には双眼鏡(8倍程度)と図鑑があれば一層楽しむことができます。

繁殖期出現鳥

1 オシドリ	17 ホトギス	34 コルリ	51 シジュウカラ
2 マガモ	18 コノハズク	35 マミジロ	52 ゴジュウカラ
3 コガモ	19 フクロウ	36 トラツグミ	53 キバシリ
4 トビ	20 ヨタカ	37 クロツグミ	54 メジロ
5 オオタカ	21 アマツバメ	38 アカハラ	55 ホオジロ
6 ツミ	22 アカショウビン	39 ヤブサメ	56 ノジコ
7 ノスリ	23 アオゲラ	40 ウグイス	57 アオジ
8 サシバ	24 アカゲラ	41 メボソムシクイ	58 クロジ
9 クマタカ	25 オオアカゲラ	42 センダイムシクイ	59 カワラヒワ
10 イヌワシ	26 コゲラ	43 キビタキ	60 ウソ
11 ヤマドリ	27 イワツバメ	44 オオルリ	61 イカル
12 キジバト	28 キセキレイ	45 エゾムシクイ	62 ニュウナイスズメ
13 アオバト	29 サンショウクイ	46 コサメビタキ	63 カケス
14 ジュウイチ	30 ヒヨドリ	47 エナガ	64 ハシボソガラス
15 カッコウ	31 カワガラス	48 コガラ	65 ハシブトガラス
16 ツツドリ	32 ミンサザイ	49 ヒガラ	以上65種
	33 コマドリ	50 ヤマガラ	

ブナの原生林

園内のブナ林は、地球上に生物が誕生して以来そのまま、ほとんど人手が加えられたことのない見事な原生林で、国内でも貴重な財産です。現在、市有林122.6ヘクタールを自然園として、周辺の国有林397.41ヘクタールを風致保護林として大切に保存しています。
 ハウチワカエデ・ハイヌガヤ・エゾズリハ・ヒメモチ・チシマザサ・ヒメアオキ・オオバクロモジ等を共生し、日本海側で多雪地帯に分布する「チシマザサ ブナ群団」に属しています。

